



学校運営協議会だより

立川市立第一小学校

コミュニティ・スクール (家庭・地域とともに歩む教育活動の推進)

令和2年度 第4号 (2021. 3. 24発行)

第4回 学校運営協議会が開催されました

2月18日(木)今年度、最後の学校運営協議会が開かれました。最後の締めくくりとして、1年間の学校経営の評価
また、来年度の経営計画等、重みのある内容に各委員、緊張した様子でした。

【伊藤委員による記録より】

[1] 学校評価に関すること

①「学校だより2021・2号」

アンケートの結果を掲載、田中校長が分析している。

②「学校評価結果対比一覧」

本年度の回答率:73.1% (前年度:64.0%)

委員から「わからない」に回答があることに「わからない」。

③「学校評価保護者アンケートの結果から」

例えば、「安全な学校教育」の問いに、そう思う:159、おおむねそう思う:135、あまり思わない:8、思わない:1、わからない:18……保護者は、帰宅時、あるいは夕飯時、就寝時に、「今日の学校、どうだった？」と子どもに聞いているのだろうか。

[2] 学校運営(経営)の改善に関すること

「令和2年度学校経営計画」の校長による評価:A4・8ページに渡る詳細な報告。(次ページ参照)

[3] 来年度教育計画に関すること(※協議の後、承認)

①「令和3年度教育課程について(届)」(田中校長より)

・教育目標 ・指導の重点などを説明

②「令和3年度年間行事計画」(春原主幹教諭より)

主な行事=始業式・入学式:4月6日、運動会:10月9日、展覧会:11月18日~20日、3月24日:修了式、
3月25日:卒業式

③「令和3年度学年別授業日数及び授業時数の配当」(春原主幹教諭より)

年間授業日数=1・2年生:205日、3・4年生:206日、5・6年生:207日(標準:202日)

年間授業時数=1年生:888時間、2年生:943時間、3年生:1008時間、4年生:1049時間、5年生:1044時間、
6年生:1041時間

④「令和3年度教育課程について(届)」(あおぞら学級)

「令和3年度授業日数及び授業時数の配当」(市村主幹教諭より)

年間授業日数=1・2年生:205日、3・4年生:206日、5・6年生:207日(標準:202日)

年間授業時数=1年生:547時間、2年生:580時間、3年生:575時間、4・5・6年生:605時間

……いずれも委員より質問も異議も出ず、故に無事に「承認」!



【学校経営の評価と改善 校長の発言より】

コロナ禍という事もありますが、「わからない」も含め課題の残る結果でした。また、アンケート回収率の低さ、「わからない」という事は学校からの発信不足という事もあるのかもしれませんが。来年度は、学年だよりに学校の取組を連載するなど、工夫していきたいと思います。

本年度重点目標である「心豊かで 思いやりのある子」について、本来ならコミュニティ・スクールとして展開されていくべきであったが、2ヶ月間の休業という事もあり、豊かな体験が少なかったように思います。

教員同士、互いの良さを学びながら日々の勤務の中でスキルアップし、互いに学び合う事が学校独自でできたらとまた、教員一人ひとりに割られる業務部分から、学校運営に携わるようにと考えています。

社教複合施設の利点を活かした柴崎図書館・柴崎学習館との連携が未だ行われていません。感染症の収束状況を見定めながら、新たに設ける「学校図書館活用・読書指導推進部」を中心に柴崎図書館の活用を図っていきます。

一般のコロナ禍における子どもたちの体力低下は、深刻な問題です。来年度の学校教育目標の重点は「体をきたえ元気な子」と考えています。

教育指導に積極的に関わってくださっている栄養士さんをはじめ給食調理員さんのいる自校式給食システムの利点を活かし、食と体力・食と学力・食とオリパラ・食と立川市民科等の多角的な食育指導を図っていけるよう関係部署の協力依頼を働きかけます。

常に課題解決力、創造力のある学校経営をもって、信頼される第一小学校であり続けたい

校長先生の話に、コミュニティ・スクールとして、地域・保護者の方が学校に参画し、協力していく事が第一小学校の児童にとっても **知・徳・体** に沿った充実した小学校生活を送れるのでは。そして、携わった方々も充実感であったり、達成感であったり。また、児童の笑顔という最高のプレゼントがあると思います。 (米川)

今期学校運営協議会を終えるにあたって 副会長 小菅隆寛

昨年度より始まった協議会制度、認知度はまだ低い状態だと思います。様々な活動に制限がかけられている現在、もっと広く地域の皆さんに知ってもらいたいところでしたが、正直なところ年間4回の集まりをもつことが精一杯な一年間でした。

そのような中、柴会長を先頭に知恵を出し合い、米川委員、撰梅委員を中心に「学校運営協議会だより」と「コミュニティ・スクールかわら版 つなぐ つむぐ しばさき」の発行が始まりました。

この協議会は学校運営に保護者、地域住民が参画し、支援協力しようという制度です。まずは小川委員の畑をお借りして2年生の畑体験活動が行われました。その様子は、かわら版を通じご覧になられたと思います。

また、放課後見守りのわくわくクラブでは伊藤委員、井口委員が活動し、登下校の見守りにはシルバーさんをはじめ多くの方々にご協力頂いています。長期休業期間中は、しばっこ☆クラブにより見守り活動が行われています。

こういった活動を通して、地域の学校としての第一小学校を皆で支え、子どもたちの成長を見守っていければうれしく思います。まだ始まったばかりの制度で、入れ物はできたけれど、の状態です。魂を入れるのは保護者地域の皆さんです。その先頭に協議会委員が立ち、より良いものにするために次期委員さんに引き継いでいきたいと思っています。一年間ありがとうございました。

今期委員を終えるにあたって 各委員からひとこと

柴会長 学校運営協議会のあり方の難しさ

運営協議会の協議事項は、広範囲にわたるため、資料をすべて理解する事は難しい。

4回の会議では、学校運営の基本方針・学校運営・教育活動などの方向性を出す事は容易ではない。

運営協議会は、学校の基本方針などの説明を受け、協議し承認する機関であり、独自性のある方針は作成できない。

学校運営の基本計画等、評価するのは非常に難しい。

子どもが在籍していないため、学校とのつながりががないので学校の状況がよくわからない。

小菅副会長 子どもの成長を見守るコミュニティ・スクールの精神

今年度は、コロナ禍でこれまで通りの活動ができないまま年度末を迎えました。そのような中でも、子どもたちが元気に過ごしている様子を見るとこちらが元気になります。

下校後の校舎内消毒作業も保護者からの申し出から自発的にはじまり、現在ではハートフルボランティアより継続されています。

こどもの見守り、わくわくクラブやシルバーさんによる付添い下校は今の所実施できない状態が続いていますが、保護者や地域の方々と共に、子どもの成長を見守るコミュニティ・スクールの精神が以前から根付いているのではないのでしょうか。

伊藤委員 立川一小は自分の学校

学校運営協議会委員として、責任の重さに気づき、これからは学校の運営に関して真剣に考え、厳しい目をもって、時に俯瞰し、時に仰視していく所存であります。では、その姿勢を貫徹するにはどうしたらいいか。立川一小を他人事ではなく、自分事として捉えるしか術はないだろう。自分の学校なのだ。

調子に乗って、一言。第一小学校は「第59回BCS賞」を受章している(2018年)。その選評の中に、「この施設は次世代を担う子どもたちが使う小学校・学童保育所を軸に、地域の人々がレクリエーションの場・生涯学習の場として使う学習館・図書館から成り立っている。これらの施設は共用することができる機能を持ち、さらに複合化することで高機能化する内容もある」とある。竣工して6年、学校は柴崎保育所、学習館、図書館と果たして共用できているだろうか。複合化して、高機能化を発揮するよう願う次第である。

小川委員 一人前の運営委員になるには

運営協議会委員を拝命して一年、校長が作成する教育方針を承認する、教育委員会又は校長に意見を述べる事が出来る等、責任の重い役だと感じました。一人前の運営委員になるには、数年かかりそうだと感じました。

子どもたちとの、田植え、稲刈り、朝早くから餅つきの準備やけんちん汁作り。先生方も一緒に餅つきが思い出されます。野菜植えや畑で子どもたちと触れ合うのが、身の丈に合ったかわり方かなと感じました。

井口委員 学校・家庭・地域が協力して頑張っている姿を見せる事が大切

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、学校、地域ともに計画していた多くの活動ができなく地域連携も取りにくい事態でした。これまで、当たり前に行っていた活動のひとつひとつがどれだけ大切な事を改めて知る事となりました。そんな中、学校運営協議会で学校の活動や方針を聞き、休業はあったもののその後は校長先生指揮のもと、学校公開や行事等ができたことは来年度に繋がる事だと思います。

こんな時だからこそ、私達大人が、学校・家庭・地域が協力して頑張っている姿を見せる事が大切ではないでしょうか。毎月15日、先生、PTAご協力のもと「さわやかあいさつ運動」を行っています。大人も子どもも「あいさつ」からはじまる地域づくり。あいさつの和合は広がっていると思います。早く正常な社会に戻り、子どもたちが安心して育っていける環境づくり、子どもたちの笑顔がたくさん見られる活動ができればと思っています。

来年度も子ども達の成長のためによりよい学校運営に協力したいと思います。

米川委員 こつこつと積み重ねて継続を

コロナ禍で活動が制限されている今までにない状況下で、学校運営協議会委員として、どのような事ができるのかと思いましたが、今年度だからできないではなく、今年度だから出来る事はなにかと考えました。そして、コミュニティ・スクールとしての活動の地域の方や保護者の方への周知、参画実現に向けて、「学校運営協議会だより」「コミュニティ・スクール通信 つなぐ しばさき つむぐ」を撰梅先生はじめ、多くの先生方の多大なるお力添えにより発行に携われた事は、少し前進できた事なのかなと思います。今後もこつこつと積み重ねて継続できたらと思います。

撰梅委員 柴崎を盛り立てなければならない。

70人=35+35=2学級、71人=23+24+24=3学級、35人と23人、どちらの方が教員の目が届くかは明瞭だ。今後全国的に学年進行で35人学級となるが、その恩恵に浴するには、71人の確保は必須だ。

就学年齢の児童を持つ保護者には、積極的に一小への入学を促そう。迷うことなく入学したくなる学校を教職員・保護者・地域が力を合わせて作ろう。学校の存亡、さらには柴崎の将来のために知恵を絞り、行動するのが、学校運営協議会なのだという思いを強くした一年だった。

中村恭之・地域学校協働本部コーディネーター

私は地元の自治会長を仰せつかっていますが、月1回、柴崎町15町会の自治会定例会を行っています。その席で、学校運営協議会の話をして、誰も知らない。「学校だより」は回覧版で、まず町会長のところに届けられているのに、誰も知らない。まあ、コロナ禍では仕方ないとしても、学校は、地域に積極的に情報を発信していただきたい。また、逆に地域の声を聞いていただきたい。

子どもたちに「立川の歴史を学ぶ」が奨励されていますが、立川にある16の町は、それぞれの歴史を持っています。「立川の歴史」の一本でくくられると、それらの独創性が消されそうな気がします。郷土を愛すとは、立川ではなく、柴崎町を愛することです。

来年度に向けて 校長 田中光晴

昨年4月より新しい小学校学習指導要領が全面実施されました。そこには、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標があり、学校と地域社会には、互いに連携・協働して、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育むことができる学校教育の創造が求められています。本校で学ぶ子供たちには、我が柴崎町の人やモノ、自然や文化等、身のまわりの豊かな教育環境とのつながりを感じながら育って欲しいと願っています。学校運営協議会には、学校と柴崎町を結ぶ懸け橋の役割を担っていただきたく思っております。引き続き、地域の学校“第一小学校”を皆様のお力で支えていただきますよう、宜しく願い申し上げます。

あなたも来年度委員を務めてみませんか

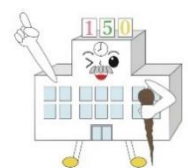
ともに一小のこと、しばさきのことの思いを巡らしてみませんか

とくに、一小の卒業生で、今も一小への熱い思いをお持ちの方

一小の卒業生ではないが、しばさきを第2のふるさとにしようと思っている方

多くの方の、お申し出をお待ちしています。

なお、最終的な人選は、学校側でさせていただきますことをご承知おきください。



皆様からの投稿もお待ちしております

(作成：米川・撰梅両委員 編集協力：君塚)

第4回学校運営協議会・議事録(開催:令和3年2月18日)

出席: 委員 (柴、小菅、井口、米川、伊藤、撰梅)、田中校長、小林副校長、市村主幹教諭
説明のために: 春原主幹教諭

傍聴: 中村恭之 (地域学校協働本部コーディネーター)

欠席: 委員 (小川)

1. 挨拶: 柴会長

皆様、こんにちは。本日はお忙しいなか、またコロナ禍のなかにご出席をいただきましてありがとうございます。

第4回ということで、本日が今年度の最後の運営協議会になります。皆様に承認をいただく事項もあるかと思われますので、よろしく願いいたします。

2. 事務連絡

[1] 第3回議事録の承認 (作成: 小川委員)

[2] 『学校運営協議会だより』は、3月24日が終了式のため、それまでに発行したい。

委員の皆様の協力をお願いする次第です。

3. 本日の配布物

[1] 「令和2年度学校経営計画」の校長による評価

[2] 「令和3年度学年別授業日数及び事業時数の配当」

[3] 「令和3年度教育課程について (届)」 (あおぞら学級)

「令和3年度授業日数及び事業時数の配当」

[4] 今年度協議会を終えるに当って: 各委員から (超々抜粋)

柴: 運営協議会は、学校の基本方針などの説明を受け、協議し承認する機関であり独自性のある方針は作成できない。

小菅: 立川一小を我が母校として愛着をお持ちの方々が地域に大勢いらっしゃいます。本協議会が、それら一小に心を寄せる方々と学校との橋渡しとなり、本校の更なる発展に寄与していきましょう願っております。

小川: 校長が作成する教育方針を承認する、教育委員会または校長に意見を述べることができる、教職員の任用に意見を述べるができる等々、責任の重い役で、一人前の運営委員になるには数年はかかりそうだなと感じました。

伊藤: 運営協議会委員は、第三者委員みたいなもんだろうと思っていたのが大間違い。運営とは経営に他ならず、「第三者」、どころか「第一者」として真剣に対峙しなければ、「業績アップ」につながらないことを痛感した一年でした。

井口: 新型コロナウイルスとの生活はまだ続きそうです。このような状況では困ったことや苦しいことが多く出てくるかと思いますが、そんな時だからこそ私たち大人たちが学校、家庭、地域が協力して頑張っている姿を子どもたちに見せることが大切ではないでしょうか。

米川: 協議会のなかでは、学校の方針、第一小学校の教育の現状や把握、また田中校長のお考えな

ど、今まで子どもを学校に通わせている一保護者の立場では聞けない話に、気が引き締まる思いでした。

「学校運営協議会だより」「コミュニティ・スクール通信 つなぐ しばさき つむぐ」は継続していただけたら良いなと思います。

撰梅:負けれない、負けてはならない→負けない学校を創らなければならない。そのためには、
個性化、特色化（売りを作る）（総花、横並び、金太郎飴からの脱却）。
・成果の発信（宣伝）。

厳命の行動指針：71人は絶対に確保せよ、死守せよ。

5. 傍聴人（中村地域学校協働本部コーディネーター）より

私は地元の自治会長を仰せつかっていますが、月1回、柴崎町15町会の自治会定例会を行っています。その席で、学校運営協議会の話をして、誰も知らない。「学校だより」は回覧版で、まず町会長のところに届られているのに、誰も知らない。まあ、コロナ禍では仕方ないとしても、学校は、地域に積極的に情報を発信していただきたい。また、逆に地域の声を聞いていただきたい。

子どもたちに「立川の歴史を学ぶ」が奨励されていますが、立川にある16の町は、それぞれの歴史を持っています。「立川の歴史」の一本でくられると、それらの独創性が消されそうな気がします。もちろん、立川の全体を俯瞰し、把握することは大事ですが、まず柴崎町の歴史を学んでください。郷土を愛すとは、立川ではなく、柴崎町を愛することです。

6. 謝辞:今年度協議会を終えるに当って（田中校長）

さまざまなことが起こった1年でしたが、委員の皆様には任期の1年を全うしていただき、ありがとうございました。中村さんにも、お世話になりました。

地域の一小として、委員の皆様や中村さんのご期待に応えるべく、さらなる努力を重ね、学校運営に邁進してまいります。

本当に、ありがとうございました。

（議事録作成：伊藤

委員）

4. 本日の協議事項

学校評価保護者アンケートの結果から

- ・第一小学校の学する校行事は充実していると思いますか。
- ・お子さんは、家庭で学習する習慣がついていると思いますか。
- ・第一小学校は、立川市立第一中学校と連携して学校教育に取り組んでいると思いますか。

学校評価

今年度をご承知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大により、学校、地域ともに計画していた多くの活動ができなく地域連携もとりにくい事態ではあります。そして、まだまだ収束も見えていません。その中、学校運営協議会で学校の活動や方針を聞き、休業はあったもののその後は校長先生指揮のもと、学校の構造を活かして学校公開や行事等できた事は来年度に繋がる事だと思えます。コロナ禍にあって厳しい状況ではありますが、来年度も子ども達の成長のためによりよい学校運営に協力したいと思います。

ご意見、ご感想、ご質問等ありましたらお寄せください。
第一小学校 副校長 小林 錠 / 副校長補佐 撰梅 正人